

令和5年度 県立日立第二高等学校自己評価表

目指す学校像		創立以来、96年に及ぶ女子教育の歴史と伝統の上に立ち、変化してゆく現代社会にあって、校章の野ばらのごとく、「清らにつつましく、踏まれても、刈られても、たくましく、美しく」生きていく意欲と感性豊かな人間の育成に努め、生徒一人ひとりの知的・道徳的・芸術的・身体的な能力を最大限に伸ばし、調和のとれた人間の形成を図る。				
三つの方針		具体的目標	評価		次年度（学期）への主な課題	
「三つの方針」（スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標） ① 女子教育という建学の精神のもと、変化する社会の中で「清らにつつましく、踏まれても、刈られても、たくましく、美しく」生きていく意欲と感性豊かなリーダーシップのある人財 ② 生涯の力となる学びを通して、知的・道徳的・芸術的・身体的な能力を最大限に伸ばした調和のとれた、共生社会で自立できる人財	B	B	・生徒の多様な進路希望の実現に向け、基礎学力の定着、主体的に学ぶ姿勢を育成する。 ・ICTの活用や、生徒の活動場面を適切に取り入れた授業改善を継続する。 ・看護・医療コースの完成年度として指導方法を確立する。 ・コロナ禍後の効果的な国際理解教育を構築する。 ・配慮を要する生徒のニーズを適切に把握し、共通理解を深める。 ・資格試験やボランティア活動への積極的な参加を推進する。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標） ① 生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程に基づき、基礎学力の増進と進路意識の高揚に努め、生徒の適性、能力、希望に応じた進路希望の実現 ② 体系的なキャリア教育と体験的な国際理解教育の活動を通じて、グローバルな視野をもってコミュニティーを俯瞰し、看護・医療分野を始め多方面で支えることができる人間性の涵養の実現	B			
	「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	（短期的目標） ① 基本的な生活習慣を確立し、学習活動、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動などに粘り強く取り組み、自己実現を目指す生徒 ② 夢を生活の原動力、将来の目標とし、それに向かって「温順にしとやかに お互いに心をあわせ 明るく快活に まじめに勤労へ」日々努力する生徒	B			

昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
【成果】 (1)生徒の希望する進路を実現するために、授業をはじめ面接指導・課外授業等、継続的指導により、生徒数減少のなか国公立大学に2名合格した。 (2)部活動加入率は約7割で、活発に活動している。バレーボール部が関東ジュニアビーチバレーボール大会の出場権を得た。また、文芸部は俳句の部で令和5年度全国総合文化祭の出場権を得た。 (3)国際理解教育では、英語コミュニケーションコースの生徒が校内のEnglish Day(成果発表会)でTokyo Global Gateway(東京英語村)やJICA 筑波、British Hillsでの学習成果を発表し、学びを深めた。 【課題】 (1)新学習指導要領の実施、「主体的・対話的で深い学び」及びタブレット・電子黒板等のICTを活用した授業実現のために、中学校での出前授業・授業参観等、校内の相互授業参観等、教職員で一層の授業改善に取り組む。 (2)中学校・地域等に対して積極的な広報活動を行い、本校の特色や生徒の活動の様子等をPRするとともに、中学校・地域の要望を把握することにより本校志願者数を増加させる。	1 中卒者数の大幅減に対応するため更なる戦略的広報活動を展開する。	①「本校を知ってもらって、来てもらって、見てもらって、体験してもらって、受けてもらって、入ってもらって」という一連の流れの中での広報活動を実践する。 ②「コミュニティ・スクール」として、地域との連携を一層深め、中学校への出前授業などを通して、本校の魅力と特色を打ち出し、受検生の獲得に努める。	B
	2 個に応じた教育を推進し、確かな学力の定着に資する授業改善に努め、進路実現に導く。	③「主体的・対話的で深い学び」の実現及びタブレット・電子黒板等のICTを活用した授業改善に努める。 ④公開授業や相互授業参観の実施など、学習指導の質的向上を目指した校内研修体制の充実を図る。 ⑤学び直しや基礎学力の定着を図り、自ら意欲的に進路実現を目指す生徒の育成に努める。 ⑥生徒と向き合う時間の確保に努め、適切な助言指導力の向上を目指す。 ⑦「チャレンジ・プロジェクト事業」を通して、生徒に寄り添った体験学習を実践し、進路意識の高揚に努める。 ⑧新学習指導要領の実施及び看護・医療コース開設に向けた整備を進める。 ※数値目標(生徒の授業満足度、肯定的評価80%以上) ※数値目標(進路希望決定率100%) ※数値目標(1日看護体験参加者30名以上) ※数値目標(インターンシップ参加者15名以上)	B
	3 基本的生活習慣の定着と規範意識の高揚を図り、自己の確立を目指す。	⑨しとやかな身だしなみに基づき、温順に快活な生活習慣を身に付けさせる。 ⑩清らに美しく生活するために清掃を徹底し、美化活動に努める。 ⑪集団の一員としての自覚を高め、他者と協働しながら課題に挑戦して解決することができる力の育成に努める。	B
	4 特別活動の活性化を図り、豊かな人間性を培う。	⑫自主的・主体的な部活動や生徒会活動を奨励し、キャリア・パスポートを活用して、心身共に調和のとれた生徒の育成に努める。 ⑬学校行事を通して、直面する課題に適切に対応できる能力を育成する「シティズンシップ教育」の推進に、積極的に取り組む。	A
	5 国際理解教育を推進し、国際人としての素養の涵養に努める。	⑭英語によるコミュニケーションの機会を積極的に創出し、英語を使いながら学ぶ体験的な学習方法の確立を目指す。 ⑮英語を学ぶ・英語で学ぶ・ともに学ぶ姿勢で、「おもてなし英語」を身につけさせる。 ⑯海外短期留学や外国からの留学生との交流を通して実践的英語力育成と異文化理解の促進に努める。 ※数値目標(年間英検受検者数:2級20名以上、準2級80名以上)	B
	6 活力と魅力ある学校づくりの推進に努める。	⑰県立学校改革基本プランに沿った継続的検討を進める。 ⑱働き方改革を促進するため、部活動の精選等、教職員の業務の見直しを推進する。 ⑲「県立日立第二高等学校の部活動に係る活動方針」に従い、安全に、短時間で効率的な部活動を実施する。	B

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科指導		創意工夫をこらした指導と充実した授業の展開	「主体的・対話的で深い学び」の実現とタブレット・電子黒板等のICT活用のため、授業改善に取り組み、分かる授業を展開する。 生徒の授業満足度、肯定的評価 80% ③④⑤	B	B	・ICTや資料等を効果的に活用し、生徒の活動場面を適切に設けるなど、授業改善を推進する。 ・新教育課程に対応した観点別評価の充実を図る。
			総合的な探究の時間（野ばらタイム）をスムーズに運営する。 ⑤	B		
		年間指導計画に基づいた授業の展開	シラバスを活用し、計画通りの指導内容や進度を達成する。 ④⑤	B		
			観点別評価を推進し、指導の改善を図る。 ③⑤	B		
		授業時間の確保と学力の向上	出張、年休の際に、授業交換を確実に行う。 ⑤	B		
			相互授業参観、校内研修会等を計画的、体系的に行い、授業改善の意識を高める。 ③④⑤	B		
教科	国語	創意工夫をこらした指導と充実した授業の展開	教材研究を十分に行之、生徒の実態に合った授業やICTを活用した授業を展開する。言語活動を豊かにしようとする積極的な態度や思考力の育成を図る。 ③④	B	B	・電子教材の効果的な活用の更なる推進及び研修が必要。 ・オンライン学習教材の積極的な活用及び研修が必要。 ・新課程の完成年度としての対応。（特に古典）
		年間指導計画の作成と活用	作成したシラバスを活用し、見通しをもったスムーズな授業を展開、進度を実現する。 ④⑤	B		
		授業時間の確保と学力の向上	出張・年休の際の授業交換を確実に行之、授業時間確保に努める。⑥	A		
			毎時間の授業で達成感を持たせるように努め、また、小論文講座との連携を図り、受験・就職試験等にも対応できる力を育成する。⑤⑥ 基礎学力の定着及び向上のための週末課題の工夫と、成績不振者に対する指導を計画的に行う。 ⑤⑥	A B		
教科	地歴・公民	基礎基本の学力の定着	定期的に課題プリント等を出して、学習習慣を身につけさせる。③⑤	A	A	社会への興味・関心をさらに高めるための授業手法の開拓。
			定期考査前後に、理解の不十分な生徒への指導を実施する。 ③⑤	A		
		多様化した生徒に対応する指導方法の工夫	I C T機器を積極的に活用し、生徒の自主的、自発的な学習を支援する。 ⑤	B		
			新聞記事やテレビのニュースなどを通して、社会への興味・関心を持たせ、自らの価値観や意見の形成を図る。 ⑪	B		
		生徒の進路希望に対応した学習指導	受験対応のため、課外授業や小論文指導を実施する。 ③⑤⑦	A		
	数学	密度の高い授業実践	到達目標を定め、計画的な授業を実践する。授業終了後、指導内容を点検し、次の授業に生かす。 ③	A	A	・観点別評価への対応が不十分なので見識を深める。 ・新課程に対応できる指導力を身に付ける。
		基礎学力の定着	教科書の設問や問題集の演習を通し、基礎学力の定着を目指す。③⑤	A		
		家庭学習の習慣化	授業終了時に問題集等から課題を与え、家庭学習の定着を図る。 ③	B		

		美術を通した思考力・表現力の育成	作品の主題や背景を読み取る鑑賞や、発想構想を重視した表現活動、言語活動を含む授業を設定し、生徒の思考力・表現力を育成する。③	A		多くみられた。鑑賞の観点を自ら発見し関心を高められる工夫をしたい。
教科	外国語(英語)	英語に対する興味付け	ALTとのTTの工夫、学校外活動の実施などを通し、コミュニケーションの手段としての英語の重要性を理解させる。④⑪⑭⑮⑯	B	B	・ALTとの打ち合わせを密にとっていきたい。 ・外部検定試験資格取得の重要性を更に周知させたい。特に英検2級合格者数が増えるように指導していきたい。 ・予習・復習・小テストが生徒にとって学習への動機付けとなるように工夫する必要がある。 ・質問に来る生徒が更に増えるような取り組みを導入していきたい。 ・教科書の内容把握に終始してしまいがちなので、「深い学び」につながる活動を取り入れていきたい。 ・ALTや外国人講師、社会人講師との更なる連携を心がけたい。 ・高大連携事業・国際教育講演会を更に工夫していきたい。 ・来年度は、オーストラリア短期留学実施予定のため、British Hillsでの校外学習は企画しない。実践的な英語コミュニケーション養成の機会を授業でも増やしていきたい。
			英検等の資格試験の情報を的確に与え、英検課外などを通して積極的に挑戦し、進路実現へとつなげさせる。③⑮	A		
		家庭学習の習慣化	予習の仕方を的確に指導し、家庭学習の習慣化と効率的な学習方法を理解させる。③⑤	B		
		基礎学力の定着	定期的に小テストを実施することにより、生徒に理解の程度を把握させる。③⑤	A		
			昼休みや放課後に生徒の質問に積極的に応じ、それぞれの疑問点の解消に取り組む。③⑤	B		
		英語による活動の推進と指導研究	英語による活動を通して、英語による思考力・判断力・表現力を育成する。③⑭⑮	B		
		国際理解教育の推進	異文化を理解尊重するとともに、我が国の文化や伝統を大切にする態度の育成を図る。⑭⑮⑯	B		
			ALTや外国人講師、社会人講師の積極的な活用を図る。⑭⑮⑯	B		
			大学や地域、外部機関との連携を図り、有効な体験活動や学習指導を実施する。②③⑭⑮⑯	A		
			「チャレンジ・プロジェクト事業」の本校の形態「グローバルプラン」を推進し、専門コースの特色作りを行い学校の活性化に役立てる。②③④⑥⑭⑮⑯	A		
家庭	家庭	基礎的な知識と技能の習得	実践的・体験的な学習活動を通して、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と技能を習得させる。⑤	A	A	・生徒の実態に合った授業を実施し、学んだことを実生活でもっと生かせるように展開していく。 ・タブレットを使って各自で調べたものや研究したものを発表する機会をつくる。
		課題解決能力の育成	ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通して、生活の中から問題を見だし、解決方法を考え、実践する力を育てる。③⑪	B		
		自己の生活と社会を結びつけた学習の充実	現代社会の様々な課題を自己の課題としてとらえ、多面的・多角的に考察する力を養う。③⑤	A		
情報	情報	情報に関する科学的な見方や考え方の育成	新課程に沿った内容で、講義・実習を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養う。⑤⑥	B	B	・今年度の反省を踏まえて、レベルの設定や学習内容の変更など、新課程に対応した2年目の授業展開を考えていきたい。
		社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力の育成	情報モラルや情報に対する責任を理解し、情報及び情報技術を適切に活用しながら、情報社会に主体的に関わりようとする力を養う。⑪	B		
		授業展開の研究	「主体的・対話的で深い学び」と、学力の向上、および自ら進路実現を目指すよう授業を工夫し適切な助言指導をしていく。③⑤⑥	B		

教 務	教育課程の課題の検討と改善	令和4年度入学生から始まる新教育課程及び看護・医療コースの課題を検討し、改善を図る。⑧	B	A	・中高連携委員との情報共有 ・教員定数減に伴い、教務部が主、他分掌が主で教務部が副の場合を考慮して役割分担を調整し業務の平準化を図る。 ・成績処理について、学年内の係との連携を密にする。 ・校内ネットワーク共有フォルダの状況を改善する。 ・学習用端末を含む ICT 教育の総合計画を立案し実践する。 ・看護・医療コース運営のため、各部、教科、学年、外部機関との調整や連携を密にする。
	授業時間の確保	出張、年休の時に授業交換を確実に行う。⑤	A		
	広報活動の充実	中学校訪問、ポスターの配布、学校通信の配布等を通じて、中学校・地域への情報発信をより充実させる。①	A		
	観点別評価の推進	観点別学習状況の評価を推進し、評価による指導の改善を図る。⑤	B		
	看護・医療コースの開設準備	令和5年度から始まる看護・医療コース開設に向けて体制を整える。⑦⑧	A		
	情報機器の機材更新(校務支援システムの運用を含む)、学習用端末の利活用・指導法研究	より効果的な情報環境の整備をする。情報セキュリティ実施手順に対する職員の共通理解を図りながら、学習用端末の利活用と指導法の研究に努める。③	B		
	図書館の積極的利用の推進と、書籍・図書館企画の充実	図書委員会の活性化を図り、図書館の利用率を高める工夫をする。⑤⑪	A		
		生徒のニーズに応じた書籍等も選定し、蔵書の充実化を図る。⑤⑥	A		
	図書館の蔵書に関するO A化	図書館利用者の円滑な図書検索が可能となるように努力する。⑤	A		
		Eggシステムを有効活用するための環境を整え、蔵書管理のO A化を進める。④	A		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と自主的自律的な態度の育成	毎月の登校指導で、挨拶・服装・頭髪・遅刻指導等を行う。⑨	A	A	・各学年の先生方により、登下校指導、服装頭髪指導は計画的に行えた。 ・貴重品等の管理が不十分であったと思う。 ・交通安全、薬物乱用教室を無事実施することができた。 ・自転車通学者については、今後ヘルメット着用を考えたい。 ・PTAの専門委員会の活動内容について精査できた。組織の改編も進んでいる。
		生徒とのコミュニケーションを充実させて、家庭との連携を深めながら、基本的な生活習慣の確立を図る。⑨⑪	A		
		教室移動の際、集合時間の厳守と貴重品袋の使用を習慣づけて、盗難防止対策の徹底を図る。⑨⑪	B		
	学校の安全管理の徹底	交通安全・防犯（特にネット関係）・薬物乱用等の講演会を開催し、理解を深める。⑪	A		
		不審者・変質者対策の充実を図る。（迅速な対応）⑨	A		
		自転車通学者の通学届の提出・点検等を定期的に行い、交通安全の充実を図る。⑨⑪	A		
	P T A役員・保護者との連携を密にして、P T A活動の円滑な運営を図る。	専門委員会や学年委員会の活動をより充実させ、P T A活動への参加を高める。①②	A		
		学校の実態に即した、P T A事業の精選、組織の編成やP T A規約の	A		

		検討を行う。 ⑰⑱			
進路指導	生徒の進路意識の高揚と、生徒の自己実現の支援体制の強化を図る。	『高校生のための学びの基礎診断』を実施して、学年・教科で学習の課題を共有し、学力向上を図る。 ③⑤	B	A	・ 9月実力考査の追試験は廃止。 ・ 学校開放を15日から13日に削減し監督部署に2学年を加える。 ・ 看護医療コースの完成年度に向け教務、2・3学年と協力する。 ・ オンライン学習教材の有効活用をはかる。
		進路希望調査、進路適性検査、模擬試験を行い、生徒面接の資料として活用する。 ⑤⑥	A		
		平常日の課外・土曜課外・長期休業中の課外、自学自習のための土曜日の学校開放を実施し、学力の向上を図る。 ⑤	A		
		2年特進クラス担当者会議を定期的に関き、模試分析を行うとともに効果的指導法を検討し、学力向上を図る。 ⑤	A		
	「総合的な探究の時間」における探究活動と連関し、進路指導の充実を図る。	出張講義・インターンシップ・一日看護体験・大学見学会等の体験的な学習の機会を設け、報告書・レポートの作成指導や報告会での発表指導等を行う。 ⑤⑦	A		
	入試改革に関する新しい情報の収集と共有を進め、その対策を検討する。	大学・短大・専門学校の入試説明会や、高教研進路指導部の研修会等に参加し、入試改革にかかわる情報を学年・教科と共有できるようにする。 ⑥	B		
特別活動	生徒会、各種委員会活動等の活性化	生徒会活動や学校行事での自主的・主体的な活動の支援に努める。学校行事を通して、直面する課題に適切に対応できる能力を育成する「シティズンシップ教育」の推進に、積極的に取り組む。 ⑪⑫	A	A	・ コロナ明け6年ぶりの野ばら祭を開催し、生徒会や委員会・各HRが自主的・主体的に取り組む課題に正面から取り組み、成就感や達成感を体験することができた。 ・ 行事への活動行程を示すことで、HR活動を支援することができた。 ・ 学年と連携し、積極的な部活動加入やボランティア参加を促すことができた。 ・ 今年度の取り組みを継続し更に発展させていく。
		各種委員会活動の計画的な運営や充実に努める。 ⑪⑫	A		
	HR活動の活性化と充実	HR活動で、生徒の主体的な取り組みを支援し、成就感や達成感を体験させる。 ⑫	A		
		キャリア・パスポートを活用し、高校生活の見通しと振り返りにより生徒にとって今後の人生の「道しるべ」となるようにする。 ⑬			
	部活動の活性化と活気ある校風の形成	体育部、文化部への積極的加入を促し、安全に、短時間で効率的な活動を実施する。 ⑪⑬⑲	A		
		ボランティア活動等への積極的な参加により社会性を育てる。 ⑪⑫	A		
保 健	学習環境の整備	毎日、全職員と生徒による清掃を徹底する。 ⑩⑬	B		・ 毎日の雑巾がけやゴミ捨て、教室の環境整備を徹底する。 ・ エアコンや蛍光灯、加湿器の切り忘れがないよう徹底する。
		教室内外の整理整頓に努める。 ⑩⑪	B		
		環境衛生検査（照度・空気・水質・ダニ・放射線等）を定期的実施し、適切な学習環境を整える。特に換気の徹底に努める。 ⑩	A		
		教室での冷暖房の適切な使用を促す。 ⑪	A		

保 健		敷地内禁煙の徹底に向けて、教職員の協力態勢の確立に努める。 ⑪	C	A	・不安を抱える生徒にとって、カウンセリングは生徒の心身の安定に寄与した。 ・1学年のほとんどの生徒にSCとの面談（プチ面談）を実施し、カウンセリングへの理解を深めることができた。 ・いじめアンケートの有効活用ができた。
	保健指導の充実	保健指導及び健康管理指導の充実を図り、生徒一人ひとりが自分の体調管理をできるようにする。 ⑪	A		
		保健だよりを定期的に発行し、保護者との連携を図る。 ②⑪	A		
	施設設備の点検と安全管理	定期的に施設・設備を点検し、安全な教育環境を整備する。 ⑩	A		
		生徒・保護者の支援ニーズを知るために、保健室や担任・学年との連携を図るとともに、各種調査を行う。 ⑪	A		
		スクールカウンセラーとの連携を図り、生徒の来談の計画・実施を行う。 ⑪	A		
		生徒・保護者のニーズに応じて個別の相談対応を行う。 ⑪	A		
	職員研修の充実と生徒理解への支援	生徒支援に役立つツールの紹介や援助方法についての研修を行う。 ⑪	A		
第1学年	基本的な生活習慣と自律した生活習慣の確立	挨拶を励行し、校則を遵守し、規律ある生活を送らせる。 ⑨⑩⑪	B	B	・清掃の取り組み、授業や集会等での聞く態度は良好である。 ・部活動や学校行事に対して、前向きに取り組む姿勢が見られた。 ・後期から徐々に遅刻や早退、心身の不調による欠席、服装の乱れなどがあった。 ・基礎学力の個人差が大きく、オンライン学習教材の取り組みも差が開いている。 ・課外や朝ドリルの実施方法については検討の余地がある。 ・面談やアンケート等を通して、生徒の悩みを早期に把握することができた。
		全員清掃を徹底し、清潔な生活環境や学習環境を整える。 ⑨⑩	A		
	進路を見据えた学習習慣の確立	予習復習や課題等を通して基礎学力の定着を図る。 ③④⑤	B		
		進路ガイダンス、進路講演会等を有効に活用し、課外や検定試験の積極的な受験など、主体的に自らの進路を切り拓く力を養う。 ⑤⑥	B		
	人間力の育成	道徳やHR活動、部活動等を通して、豊かな心、コミュニケーション力を育む。 ⑫⑬	A		
		国際理解教育、メディア教育を重視し、これからの社会に適応し、活躍できる力を育む。 ⑭⑮⑯	B		
第2学年	基本的な生活習慣の確立	挨拶を励行し、校則を遵守し、規律ある生活を送らせる。 ⑨⑩⑪	B	A	・校則を守れていない生徒への一貫した指導を粘り強く継続する。 ・持ち物管理の徹底 ・教科・キャリア指導の双方から、看護医療コースの指導方法の確立を目指す。
		継続指導の下、校則を遵守し、日立二高生らしい容姿を身に付けさせる。 ⑨⑩	B		
		全員清掃を徹底し、清潔な生活環境や学習環境を整える。 ⑩⑪	B		
	進路実現に向けた学習習慣の確立	各教科において予習、復習の習慣づけを工夫し、基礎学力の確立を図る。 ③④⑤	B		
		外部模試の有効活用や個々に応じた指導を行い、学力向上を目指す。 ③ ④⑤⑥⑦	A		
		進路ガイダンス、進路講演会等を有効に活用し、主体的に自らの進路を切り拓く力を養う。 ③⑤⑦⑪	A		
		課外授業、模試、インターンシップ、資格試験への積極的な参加を促	A		

		し、進路意識の高揚に努める。③⑤⑥⑦			
第2学年	人間力の育成	日々の学校生活およびHR活動等において、真のコミュニケーションを心がけ、温かく誠実な心を育てる。⑥⑫⑬	A		
		部・委員会活動及び学校行事やボランティア活動等へ積極的に参加させ、健全な心身の成長を促す。⑫⑬	A		
		修学旅行に向けて十分な事前指導を行い、伝統と文化、持続可能な街づくりについて自ら考える力を養う。③⑪⑬	A		
第3学年	基本的生活習慣と自律した態度の確立	挨拶を励行し、校則を遵守し、規律ある生活を送らせる。⑨⑩⑪	B	B	・人間関係を育む行事等の機会の確保 ・欠席、遅刻早退が多い生徒への対応の工夫 ・教員と生徒間の信頼関係の構築 ・面談を通して生徒の変化を捉え、よりよい進路選択、人間関係につなげる。 ・外部模試の有効的な活用の工夫
		継続指導の下、校則を遵守し、日立二高生らしい容姿を身に付けさせる。⑨⑪	B		
		全員清掃を徹底し、清潔な生活環境と学習環境を整え、奉仕の心を育てる。⑩⑪	B		
	進路実現に向けた学習習慣の確立	授業を中心に、積極的な課外活動への参加や家庭学習を促し、学力の育成を図る。④⑤	B		
		外部模試や検定の有効活用や個々に応じた指導を行い、学力向上を目指す。⑤⑥⑦	B		
		総合的な探求の時間を活用した系統別進路学習により、進路実現に向けての能力を高める。⑤⑥⑪	A		
		時事問題や一般常識への関心を高め、社会とつながる進路決定ができるよう指導する。⑤⑥⑦	B		
	人間力の育成	日々の学校生活およびHR活動等において、良好な人間関係を築き、温かく誠実な心を育てる。⑪⑫	B		
		部・委員会活動及び学校行事やボランティア活動等へ積極的に参加させ、健全な心身の成長を促す。⑪⑫⑬	A		
		自己管理能力を高めさせ、自ら考え責任を持って行動する力を養わせる。⑥⑪	B		

評価方法〔A、B、C、D、Eの5段階で評価する〕

A・・・十分達成できている B・・・達成できている C・・・概ね達成できている D・・・不十分である E・・・できていない